

<報道関係者各位>


hunger free world
 食べる、生きる、明日を育む。

2019年12月26日


家庭に眠る不要物品で、国際貢献できます

書損じの年賀状で世界の飢餓をなくそう！

家庭に眠る未投函ハガキ、切手、商品券、CD・DVDなどが、飢餓の解決につながります

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド(理事長:原田麻里子)では、日本および、バングラデシュ、西アフリカのベナン、ブルキナファソ、東アフリカのウガンダの5カ国で、飢餓に直面する人々の自立支援を行っています。

ハンガー・フリー・ワールドでは、個人が飢餓の解決のために気軽に参加できる方法として、この時期に多く出る年賀状の書損じや、未投函のハガキ、切手、商品券、未使用テレホンカード、CD・DVD、未使用プリペイドカードなどを全国から送ってもらう「書損じハガキ回収キャンペーン」を実施中です。

【実施期間】 2019年12月1日～2020年5月31日(日)
**【送付先】 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-13 山商ビル8階
 NPO法人ハンガー・フリー・ワールドはがき係**


前回(2018年12月～2019年5月)のキャンペーンでは、全国から12万6603名が参加し、換金額は1億9678万円になりました。

換金された資金は、飢餓に直面する人々の自立支援のために活用

海外活動国では、栄養知識の普及や、地元でとれる食材でつくる栄養バランスのよい食事メニュー、調理法などを教えています。また、栄養のある食材が自分たちの手で得られるよう作物の栽培法の研修や住民たちからなる協同組合の活動支援を行っています。さらに、飢餓を生み出す社会のしくみを変えるよう政策提言や啓発活動、青少年育成を国内外で行っています。



たとえば、はがき1枚で、栄養バランスのよいおかゆ1食分に



西アフリカ・ベナンで栄養不良の3歳未満児を対象にした栄養改善事業を実施。2年で約63%が回復した。

SDGs ゴール2 「飢餓をゼロに」に貢献



飢餓問題の解決は、国際社会の共通目標であるSDGsのゴール2に掲げられています。その達成には、政府や国際機関、研究機関、NGO、企業など組織だけでなく、個々の人々の取り組みが欠かせません。自宅にいながらにしてできる国際協力、どなたも気軽に参加できる社会貢献としてご紹介いただき、より大勢の方に飢餓をなくす活動への参加をお願いできれば幸いです。

本件に関するお問い合わせ先 特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド

広報担当 糟谷(かすたに)知子 TEL 03-3261-4700(～12月27日、1月6日～10:00～18:30) FAX 03-3261-4701

E-MAIL pr@hungerfree.net URL http://www.hungerfree.net/ 〒102-0072 千代田区飯田橋4-8-13 山商ビル8階

ハンガー・フリー・ワールドについて

1984年アメリカに本部を持つNGOの日本支部として活動を開始。2000年に日本に本部を置く国際協力NGOとして独立し、特定非営利活動法人の認証を取得。日本、バングラデシュ、ベナン、ブルキナファソ、ウガンダで活動。「飢餓のない世界」を創るため、海外では住民主体の地域開発、国内外では、アドボカシー、啓発活動、青少年育成に取り組む。

所在地

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-13 山商ビル8階

TEL 03-3261-4700 FAX03-3261-4701

E-MAIL info@hungerfree.net

平日:10:00-21:00 土:10:00-18:00

運営

設立	1984年4月
理事長	原田麻里子
事務局長	渡邊清孝
会員数	469名(2018年12月現在)
寄付者数	2031名(2018年12月現在)
正会員数	44名(2018年12月現在)
役員数	9名(理事7名／監事2名)
事務局員数	18名(専従職員14名／非専従職員4名)
財政	総支出 449,961,652円(2018年度決算)



栄養について学んだお母さんたちが、村の栄養不良児のために、栄養バランスのよいおかゆを週3回提供しています(ベナン)



住民による協同組合を支援。会計能力を強化するための研修を実施し、自分たちで管理運営できることをめざしています(ウガンダ)



青少年が中心となって、12~14歳の生徒1009名に、栄養とフードロスについて伝え、実践を促しました(バングラデシュ)



国家予算の策定にかかわる行政担当者らを招き、国民の栄養を改善するための政策と予算について話合いました(ブルキナファソ)



特に貧しい世帯を対象に、地元で入手しやすい食材を使った、栄養たっぷりのメニューを教えています(ブルキナファソ)



国際会議で提言活動を行っています。第7回アフリカ開発会議(TICAD)公式サイドイベントでは、アフリカの若者が現状を伝えました(日本)